

令和6年度 公立高等学校入学者選抜

学力検査問題

国語

注 意

- 1 検査係員の指示があるまで、問題冊子と解答用紙に手をふれてはいけません。
- 2 問題は【問二】から【問五】まであり、問題冊子の2～9ページに印刷されています。10ページには、下書き用の枠があります。
- 3 問題冊子とは別に、解答用紙があります。解答は、**すべて解答用紙の** **の中に書き入れなさい。**
- 4 解答用紙にマスがある場合は、句読点、カギ括弧（「や」）などもそれぞれ一字と数えて書きなさい。
- 5 下書きが必要なときは、問題冊子のあいているところ、または10ページの下書き用の枠を使いなさい。

【問一】 次の文章を読んで、下の各問いに答えなさい。ただし、①～⑪は各段落の番号を示す。

① アルキメデスは風呂に入ると、水位が上がることに気づいて、「エウレカ(わかった!)」と歓喜して叫んだという。この話を聞いたことのある人も多いだろう。王冠のような複雑な形状の物体でも、それを水に入れば、その体積がすぐわかる。このことを発見して、欣喜雀躍したのである。

② 問題の答えが閃いたり、謎めいたものの正体が明らかになつたりすると、私たちは「あつ、わかった!」と叫びたくなる。このようなときの「わかる」はたいい直観的な理解である。答えがパツと思ひ浮かび、謎の正体が突然明らかになる。このような直観もまた、私たちの物事の理解にとつて非常に重要である。

③ たとえば、数学の証明問題を考えてみよう。証明は、与えられた前提から一定の規則に従つて結論を導き出すことである。しかし、従うべき規則は複数あり、それらをどんな順番で適用していけばよいかは明らかではない。この点が証明の難しいところである。証明問題を解くというのは、ようするにどの規則をどの順に適用するかを発見することだと言つていい。

④ しかし、たんにどの規則をどの順に適用するかがわかつただけでは、じつは証明が本当にわかつたとは言えない。たとえば、頭をひねつてもなかなか証明問題が解けないので、ついつい答えを見てしまうことがある。しかし、答えを見てもなお、よくわからないと感じることがあるだろう。答えを見れば、どの規則をどの順に適用して、前提から結論が導かれていくかはわかるのだが、それでもどうも腑に落ちないのである。

⑤ なぜここでこの規則を適用するのか。「そうすれば、解けるからだ」と言われても、「でも、どうして」と言いたくなる。しかし、最初は腑に落ちなくても、証明を何度もたどりかえして、証明の流れに慣れてくると、やがて「あつ、わかつた」と感じられる瞬間が訪れてこよう。それは証明のいわば「核心」が直観的に把握された瞬間である。証明の本当の理解には、証明の核心を直観的につかむことが必要なのである。

⑥ 直観はこのように私たちの理解を深めてくれる。では、そもそも直観とは何であろうか。直観にはいろいろな面があるが、以下では、直観と知覚の比較を通じて、直観の一端を明らかにしたい。

⑦ 知覚はその形成の過程が意識されることなく、その結果だけが意識にのぼる。バナナから光の刺激を受けると、バナナが見える(つまりバナナの姿が意識に現れる)。

A、このバナナの知覚が形成される過程、すなわち網膜に到達した光刺激が脳の視覚皮質に送られ、そこで順次、情報処理がなされていく過程は、意識にのぼらない。最終的な結果であるバナナの

- (1) 文章中の〃〃〃線部のよみがなを、ひらがなで書きなさい。
- ① 叫ん ② 訪れ ③ 一端
- ④ 網膜 ⑤ 順次 ⑥ 再現

(2) A、B に当てはまる言葉として最も適切なものを、次のア～カから一つずつ選び、記号を書きなさい。また、それらは同じ品詞であるが、その品詞を漢字で書きなさい。

- ア だから イ しかし ウ しかも
- エ それとも オ なぜなら カ ところで

(3) 本文における段落相互の関係の説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号を書きなさい。

- ア ③段落は、②段落の内容を受け、具体例を挙げながら否定する考えを述べている。
- イ ④段落は、③段落の内容を受け、疑問を解決し新たな話題を提示している。
- ウ ⑤段落は、④段落の内容を受け、筆者の個人的体験を根拠に、文章全体の結論を述べている。
- エ ⑥段落は、⑤段落の内容を受け、問いによって視点を転換しながら、話題を提示している。

(4) 線部①とあるが、筆者の考える、数学の証明が本当にわかるということについて次のようにまとめた。

C に当てはまる最も適切な言葉を、本文中から十五字で抜き出して書きなさい。

知覚だけが意識にのぼる。したがって、意識のうえでは、知覚は形成過程なしに突如出現するように思える。しかし、いま説明したように、それは無意識的な形成過程を経ているのである。

8 知覚と同様のことが、直観でも生じている。直観においても、その形成過程は意識されず、結果だけが意識にのぼる。さきほど述べたように、証明を何度もたどっていると、やがてその核心が直観されるが、意識にのぼるのはその核心の直観だけであって、それが脳のなかでどのような情報処理を経て形成されるかは意識されない。

9 このように知覚と直観のあいだには、よく似た点がある。しかし、その一方で、重要な違いもある。すなわち、知覚においては、物事の具体的な内容が意識に現れるのたいし、直観では、抽象的な内容しか現れない。バナナの知覚においては、意識に具体的なバナナの姿が現れるが、証明の直観においては、証明の核心という抽象的な内容しか意識に現れない。もちろん、証明を構成する式(または命題)の系列を具体的に意識に思い浮かべることができる。もちろん、それは直観によって捉えられる証明の核心ではない。

B、証明の核心を直観的に把握できなくても、証明をよく暗記すれば、証明の式/命題の系列を具体的に思い浮かべることが可能だからである。証明を直観的に把握することは、証明の式/命題の系列を具体的に思い浮かべることではなく、証明の核心を一举に捉えることなのである。

10 これは何も視覚的な事柄に限った話ではない。たとえば、ひとつの楽曲が直観的に把握されるというような聴覚的な事柄の場合も、同様である。ベートーベンの「運命」を何度も聴いて、それが直観的にわかるようになったとき、「運命」の核心を一举に捉えることになるが、それはこの楽曲を構成する音を順に意識に思い浮かべることではない。楽曲の核心を捉えることは瞬時に可能だが、楽曲のすべての音を具体的に思い浮かべるには、何十分もかかる。楽曲を直観的に把握することは、意識のなかで楽曲を具体的に再現することではなく、楽曲の核心を一举に捉えることなのである。

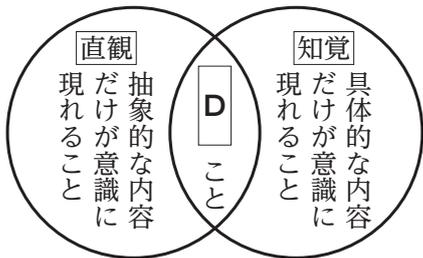
11 このように、直観では、知覚と違って、物事の核心しか意識に現れない。直観は物事の具体的な姿ではなく、その核心を「**①**」に捉えるのである。私たちの物事の理解は、このような直観によっておおいに深められる。

(信原幸弘「覚える」と「わかる」 知の仕組みとその可能性) 問題作成上ふりがなをつけた箇所がある)

* (注) 欣喜雀躍 = こおどりして喜ぶこと
 視覚皮質 = 視覚中枢ともいう、大脳にある視覚に関与する神経中枢

本当にわかるには、たんに規則の適用順がわかるだけでなく、**C** が必要だ。

(5) 知覚と直観について、下の図のようにまとめた。**D** に当てはまる最も適切な言葉を、本文中から十四字で抜き出して書きなさい。



(6) 線部②を踏まえ、この文章から読み取ったことを次のようにまとめた。このことについて、身近な例を用いて説明することになった。あとの(条件1)~(条件3)に従って、七十字以上九十字以内で書きなさい。

⑦ 物事の理解に向け自ら働きかけを繰り返している⑧、具体的な姿ではなく、中心となる大切な部分を**①**に捉えることができる場合がある。

〈条件1〉 線部⑦について、本文と異なる例(数学の証明、音楽鑑賞以外)を用いて書くこと。

〈条件2〉 線部⑧について、あなたが用いた本文と異なる例に応じて、物事の具体的な姿を書くこと。

〈条件3〉 線部①について、あなたが用いた本文と異なる例に応じて、何を**①**に捉えることができるか書くこと。

【問二】 生徒会長になった木下さんをはじめ、各委員会の委員長による生徒会役員会では、「全校生徒が充実感と達成感を得られる生徒会」という生徒会の目標のもと、各委員会の活動計画作成に向けて話し合っている。次のⅠ、Ⅱ、Ⅲを読んで、下の各問いに答えなさい。

Ⅰ 話の内容

木下 各委員会の活動計画は、全校のみんなの総意で決まった生徒会の目標に沿って作成したいね。
 川原 うん。でも、いざ実際に自分の委員会の活動計画を考え始めたら、生徒会の目標の「充実感と達成感」を得られる活動になっているのか、不安になってしまったよ。
 山本 僕もだよ。生徒会の目標の捉えを、改めて明確にする必要があると思うな。充実感と達成感ってどんなものだろう。

森田 うまく言えないけど……。去年、僕は園芸委員で、「花のプレゼント」という活動をしたよ。毎日一生懸命手入れをした鉢植えの花を、近くの幼稚園に持っていったんだ。子どもたちや先生方がとっても喜んでくれてうれしかったな。この活動を通して、僕は充実感や達成感を得ることができた気がする。

山本 そういう経験は僕にもあるな。僕は去年、体育委員で、体育祭の準備や運営をしたんだ。メンバー表の集約や当日の点数の集計は、大変だったけど充実していたな。体育祭当日に、全校のみんなが楽しんでいる様子を見て、やってよかったと思ったよ。

川原 森田さんは花のお世話、山本さんは事前の準備や当日の運営の中で、充実感を得ていたんだね。つまり、充実感とは、何かに一生懸命取り組んでいる中で感じるものということかあ。
 森田 なるほど。では、達成感とはどんなものかな。

川原 二人の体験で言えば、子どもたちや先生方、全校のみんなが、喜んだり楽しんだりしている姿を見たときに得られたものなのではないかな。つまり、自分が取り組んだ活動の効果や成果を実感することだと言えそうだね。

山本 なるほど。Ⅱ、充実感と達成感がどんなものなのか、改めて捉え直すことができたよ。そうだね。僕たちの捉えが明確になったね。そう考えると、充実感と達成感が得られる活動って、僕たちの経験の他にもたくさんある気がするね。

川原 それなら、どんな活動の中で充実感と達成感を得たのか、理由と一緒に、全校のみんなにアンケートで聞いてみたらどうかな。その中に各委員会の活動計画作成のヒントがあるかもしれないね。

木下 いい案だね。全校のみんなで協力し、学校生活を自分たちでよくしていくことにもつながるね。昼の放送で全校のみんなにお願いができるよう準備するよ。(…賛同の意見が続く)

(1) — 線部の山本さんの発言が、Ⅰにおいて果たしている役割を、次のようにまとめたとき、

Ⅱに当てはまる言葉の組み合わせとして最も適切なものを、あとのア、イから一つ選び、記号を書きなさい。

川原さんの発言を Ⅲに受け止め、自分の思いを述べながら、Ⅳをはっきりさせる役割。

- | | | |
|---|-----|----|
| ア | 批判的 | 結論 |
| イ | 共感的 | 結論 |
| ウ | 批判的 | 話題 |
| エ | 共感的 | 話題 |

(2) ⅠのⅡに当てはまる言葉として最も適切なものを、次のア、イから一つ選び、記号を書きなさい。

- ア 川原さんが、僕たちの経験に共通することを取り出してまとめてくれたおかげで
- イ 川原さんが、僕たちの経験を時間の流れに沿って整理してくれたおかげで
- ウ 川原さんが、僕たちの経験と似た経験をもつ人がいないか周りに質問してくれたおかげで
- エ 川原さんが、僕たちの経験に川原さん自身の経験を結び付けて話してくれたおかげで

(3) 木下さんはⅡとⅢを、生徒会顧問の新海先生に見せ、感想やアドバイスをもらった。

Ⅲ 発表原稿

皆さんこんにちは。生徒会長の木下です。今日は皆さんにお願いがあります。新生徒会の各委員会の活動計画作成のために、アンケートに協力してください。

(スライド①示す)それでは、アンケートをお願いする理由をお話します。

(ア)先日、役員会で各委員会の活動計画について話し合いました。その中で、それぞれの活動は、生徒会の目標に沿ったものにしたいたいということで一致しました。

(イ)生徒会の目標は、「全校生徒が充実感と達成感を得られる生徒会」です。【★】

(ウ)私たち役員会では、各委員会の具体的な活動計画を考えるために、皆さんの経験をヒントにしたいと思い、アンケートをとることを考えました。

(エ)では、今回のアンケートで聞きたいことについてお伝えします。アンケートには、皆さんがこれまでに充実感と達成感を得た生徒会活動と、それらを得た理由を書いてください。

(スライド③示す)最後に、アンケートの方法と締め切りについてです。今スライドで示しているようにお願いします。

皆さんのご協力をお願いします。

Ⅱ 発表資料

スライド①

各委員会の活動計画作成に向けて

< D >

生徒会の目標

全校生徒が
充実感と達成感を得られる生徒会

↓

全校生徒の経験を、
各委員会の活動計画作成のヒントにしたい！

スライド②

各委員会の活動計画作成に向けて

< アンケートで聞きたいこと >

◇ 充実感と達成感を得た生徒会の活動

◇ 充実感と達成感を得た理由

スライド③

各委員会の活動計画作成に向けて

< アンケートの方法と締め切り >

方 法：1人1台端末を使った
アンケート

締め切り：1月31日（水）

※本日、学級長を通して、二次元コードとURLを配付します。

新海先生からの感想やアドバイス

各スライド上部にある〈 〉のついた見出しが、各スライドに対する発表原稿の最初の部分とつながっていてわかりやすい。
各スライドを提示するタイミングが、スライドに関わる発表原稿の直前に設定されていてわかりやすい。
発表原稿では、役員会で話された充実感や達成感という言葉の捉えが伝わらないかもしれない。

新海先生からの感想やアドバイスを踏まえて、次の

i ~ iiiに答えなさい。

i Ⅱのスライド①にある D に当てはまる

見出しとして最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号を書きなさい。

ア 役員会としての生徒会に対する願い

イ 充実感と達成感とは

ウ アンケートをお願いする理由

エ 新しい生徒会で大切にしたいこと

ii 木下さんが設定していたⅡのスライド②を提示

するタイミングとして最も適切なものを、Ⅲの

ア～エから一つ選び、記号を書きなさい。

iii 線部を受けて開かれた役員会で、「アンケートを

とるなら、役員会で考えた充実感と達成感の捉えを、

全校生徒と共有する必要がある」という意見が

出た。そこで、木下さんはⅢの【★】の部分に説明

を加えた。木下さんが【★】に加えたと考えられる

説明を、Ⅰの中にある言葉を使って、五十五字以上

六十五字以内で書きなさい。

【問三】 次の①～③から、誤って使われている漢字一字をそれぞれ抜き出して書き、同じ読みの正しい漢字を楷書でそれぞれ書きなさい。

- ① 人工衛星からの画像をもとに、日濁の分布を観測し、過去の記録と比べて考察したことを報告書にまとめた。
- ② 菜種などから再取された油が、古くは室内の照明に使われ、今では医薬品などにも活用されている。
- ③ 独自の法律をつくり、配下の武士や領民を統制しようとした戦国大名がいたという誌実を学んだ。

【問四】 次の文章Ⅰ～Ⅲは、『枕草子』の一節である。これらを読んで、下の各問いに答えなさい。

文章Ⅰ

五月ばかりなどに山里にありく、いとをかし。草葉も水もいと青く見えわたり

たるに、上はつれなくて、草生ひしげりたるを、ながながと、たたざまに
変わった様子がなくて
縦一列に

行けば、下はえならざりける水の、深くはあらねど、人などの歩むに、
思いもよらないほどの水
従者

走りあがりたる、いとをかし。
跳ね上がる

左右にある垣にあるものの枝などの車の屋形などにさし入るを、いそぎてとらへて
牛車 人が乗る部分

折らむとするほどに、ふと過ぎてはづれたるこそ、いとくちをしけれ。よもぎの、
残念だ

車に押しひしがれたりけるが、輪の廻りたるに、近ううちかかりたるもをかし。

- (1) 文章Ⅰの〰〰線部の言葉を現代仮名遣いに直して、すべてひらがなで書きなさい。
① とらへて ② くちをしけれ

- (2) 文章Ⅰの〰〰線部の主語にあたるものを、次のア～エから一つ選び、記号を書きなさい。

〔ア〕人 イ 垣 ウ ものの枝 エ 車の屋形

- (3) 次は、生徒たちが文章Ⅰの中で注目したことから、文章Ⅱ、Ⅲを関連させて、各班に分かれて話し合っている様子である。
一 班の話し合い

津田 私は、作者の着眼点に注目して読んでみたよ。文章Ⅰで、表面は変わった様子もなく草が生い茂っているのに、**A** 様子に着目しているところ、文章Ⅱで、水面から少し葉先を出した水生植物が、上からは短く見えたのに、取らせてみたらとても長かった様子に着目しているところが似ていると思ったよ。

平山 そうだね。どちらも、意外性を感じて心動かされている作者の姿が見受けられるね。そして、文章Ⅱでは、目にした情景を、作者がそれまで知識としてもっていたこととも関わらせて「をかし」と感じているようだね。

文章II

卯月のつごもり方に、初瀬に詣でて、淀の渡りといふものをせしかば、舟
月末 したところ

に車をかきすゑて行くに、菖蒲、菰などの末短く見えしを、取らせたれば、いと
置いて乗せて行く

長かりけり。菰積みたる舟のありくこそ、いみじうをかしかりしか。「高瀬の
たいそう

淀に」とは、これをよみけるなめりと見えて。三日帰りしに、雨のすこし降りし
よんだよんだと見え

ほど、菖蒲刈るとて、笠のいと小さき着つつ、脛いと高き男、童などのあるも、
すねを長々と出している男

屏風の絵に似て、いとをかし。

* (注) 初瀬 奈良県の長谷寺 菖蒲、菰 水生植物

「高瀬の淀に」 菰枕高瀬の淀に刈る菰の刈るとも我は知らず頼まむ」という和歌

文章III

節は、五月にしく月はなし。菖蒲、よもぎなどのかをりあひたる、いみじうをかし。
及ぶ

* (注) 五月 五月五日の端午の節句。菖蒲やよもぎを軒にさして飾る風習があった

i A に当てはまる言葉を、下と従者の二つの言葉を

使って、三十字以上四十字以内の現代語で書きなさい。

ii 線部について、作者が目にした情景を次のように
まとめたとき、 B に当てはまる最も適切な言葉を、
文章IIから四字で抜き出して書きなさい。

作者は、初瀬詣での途中、「高瀬の淀に」という和歌
や B から知識として知っていた「淀の渡り」の情景を、
実際に目のあたりにし、「をかし」と感じている。

二班の話(合)

藤井 文章Iの最後の一文で作者は、ぐるっと回る車輪に

くっついて上がってくる C を、目で見ておもしろ
がって「をかし」と表現しているようだね。

大田 五感をはたらかせて物事を捉える作者だから、文章III

を参考にとすると、文章Iの最後の一文でも C の
D に対して「をかし」と感じているかもしれないね。

iii C に当てはまる最も適切な言葉を文章Iから抜き出して
書き、 D に当てはまる適切な言葉を現代語で書きなさい。

(4) 文章Iの表現の特徴として適切なものを、次のア～エから
二つ選び、記号を書きなさい。

ア 自然の中での作者一行の一連の行動を、自然物の動きのある
場面とともに描くことで、映像のように鮮やかに表現している。

イ 体言止め、擬人法、係り結びを用いることで、作者の心情
や情景を、読者の印象に深く残るように表現している。

ウ 作者にとって忘れられない自然の中での体験を、第三者
の立場から、客観的に分析しながら表現している。

エ 山里で目にした情景を、作者の喜びや感動とともに、
瞬間を見逃さない鋭い観察力によって表現している。

【問五】 次の文章を読んで、下の各問いに答えなさい。

全国大会常連の名晋高校吹奏楽部は、全国大会を目指す座奏Aチームとパレードコンテストチーム(パレコン)、それらに入らなかった座奏Bチームに分かれていた。アリスは、三年間、座奏Bチームに所属し、チームリーダーとなる。そこへ、美森、ガンちゃん、響など多くの新入生が入部してきた。数週間後、保育園の園児たちを招いてのミニコンサートをを行うことが決まった。それは、かつて幼いアリス自身も観客として参加したものだ。開演直前、座奏Bのメンバーは、演奏席に着座するが、美森は園児たちに手を引かれ観客席のマットに座り込んでしまう。そんな中、尾藤先生の指揮のもと、ミニコンサートがはじまった。

1曲目の《どんぐりころころ》が始まると、子どもたちは誰にうながされたわけでもなく立ち上がり、体を揺らしながら歌い始めた。美森も一緒になって歌った。

途中で響がトランペットソロを奏でると、子どもたちは「うまいー!」「すごいー!」と声を上げた。トロンボーンパートのメロディでガンちゃんが派手に音を外すと「間違えたり!」と大声で笑った。①とにかく感じたことを素直に表現する、どこまでも正直な聴衆だった。

2曲目の《ちようちよ》も子どもたちは演奏に合わせて一緒に歌い、3曲目の《ディープ・パープル・メドレー》は演奏の迫力とスタンドプレイに口をあぐり開けて圧倒されていた。

そして、いよいよ《シング・シング・シング》になった。座奏Bの演奏を見るために、Aやパレコンのメンバーも合奏室に入ってきて壁際に座った。

曲の冒頭、ドラムセットがソロで独特のリズムを奏で始めた。子どもたちはまた立ち上がり、それぞれに手拍子を始めた。②きらきらした幼い目を見て、アリスは思った。

(あのとき、きつと私もあんな目をしてたんだ。ううん、あれは私自身だ)

アリスは幼いころに憧れていた場所に来た。けれど、自分が思うような存在にはなれなかった。座奏Aのメンバーとして、全国大会のステージでまぶしいライトを浴びながら演奏する——そんな夢はもう一生叶うことがない。それを認めたくなかった。

夢は破れた。なのに、部活をやめなかったのは、やっぱり名晋の音楽が好きだったからだ。あのころ、名晋に憧れ、寂しい心を名晋の演奏でいっぱいにした幼い女の子が、まだアリスの中に住んでいる。(私に聴かせてあげるんだ、名晋の音楽を!)

アリスは指揮をする尾藤先生の横に進み出ると、1回目のソロを奏でた。まったくミスのない見事なソロ。子どもたちと美森は拍手喝采を送った。アリス自身、ホッとしていた。

(問題は2回目のほうだ。52小節ミスなく吹いて、最後の超高音をちゃんと出せるかな……)

踊りながら手拍子する子どもたちの前で演奏は続いていった。途中、トランペットのソロが始まった。前に出て演奏するのは響だ。とても1年生とは思えない落ち着き払った様子で、びやかな音を響かせる。ときに強く、ときに繊細に音を吹き分ける抑揚も見事で、「天才少年」と呼ばれたその実力を見せつけた。

(こんラッパもんは本当にうまかばい。はってん、なんでいつも音が泣きよーっちゃろう……)

子どもたちと一緒に拍手をしながら美森は思った。響がソロを終えて元の場所に戻ると、ドラムセットのソロとともに再びアリスが前に出た。その表情は明らかに緊張していた。

(1) 文章中の〳〵線部「抑揚」と同じ構成の熟語を、次のア～エから一つ選び、記号を書きなさい。

〔ア 摩擦 イ 佳作 ウ 凹凸 エ 観劇〕

(2) 線部①と同様の意味をもつ慣用句として最も適切なものを、次のア～エから二つ選び、記号を書きなさい。

〔ア 頭をひねる イ 歯に衣着せぬ
ウ 鼻にかける エ 目が高い〕

(3) 線部②とあるが、きらきらした幼い目を見たアリスに生まれた決意とはどのようなものか。それがわかる言葉を、本文に示されている、アリスが心の中で思っている言葉からさがし、最初の五字を抜き出して書きなさい。

(4) アリスが1回目のソロ演奏を終えた場面から、アリスのソロ演奏に美森が加わるまでの場面におけるアリスの心情の変化について、次のようにまとめた。Aに当てはまる言葉として最も適切なものを、あとのア～エから一つ選び、記号を書きなさい。

安堵 ↓ A ↓ 緊張 ↓ 自己嫌悪 ↓ 困惑

〔ア 感謝 イ 陶醉 ウ 激高 エ 不安〕

(5) 線部③の比喩表現の効果について、次のようにまとめた。Bに当てはまる言葉を、「小さなロウソクの炎」が何をたとえているかを明確にして、三十文字以内で書きなさい。

この部分は、「まるで〳〵ように」という比喩表現を使うことで、アリスを応援する B がイメージしやすくなっている。

まるで囁き声で話すように静かな音でソロの冒頭が始まった。アリスは何度も繰り返し練習してきたフレーズを奏でていった。*スウィングジャズならではの奏法やノリを維持しながら、次々と音を繰り返す。伴奏はドラムセットのリフレインだけだ。緊張感から手に汗がにじみ、キーを押さえる指が滑った。(ダメだ！ やっぱりダメだ！) なんて私はうまくできないんだろう！)

徐々にテンポが遅れ始め、焦ると指が絡まった。

(いままで本気で練習してこなかった罰だ。私は自分に罰せられてるんだ……)

いくつもの音符が飛び、いまにもクラリネットの音が止まりかけた。

と、どこかから「がんばれ〜」という声が聞こえてきた。アリスの様子に気づいたひとりの子どもが

声を上げたのだ。すると、まるで小さなロウソクの炎が次々とまわりのロウソクを灯していくかのよう「がんばれ〜」の声が子どもたちの間に広がり、やがて大合唱になった。

「がんばれ〜！」

「お姉ちゃん、がんばれ〜！」

(頑張れって言われたって……指は動かないし、頭の中はもう真っ白なんだよ……！)

アリスは目を閉じて現実から逃げようとした。もう少しで「本気で頑張っていないスイッチ」を押しそうになった。

そのときだ。不意に響き始めたのは——トランペットの音だった。

マットの上で美森が立ち上がり、楽器を奏で始めていた。それは、クラリネットソロそのものだった。美森はアリスの練習を聴きながらソロをすべて覚えてしまっていたのだ。

園児たちはもちろん、響や水月、その場にいる部員たちも美森の突然の演奏に驚いていた。いちばん驚いていたのはアリスだった。

(あ的美森って子……！)

美森はトランペットを吹きながらアリスのほうへ歩み出ていった。すると、まるでその音に手を引かれるかのように、アリスの音が戻ってきた。美森のトランペットにアリスのクラリネットが重なる。ふたりの目が合い、かすかに微笑み合った。音はびたりと揃って、美しいユニゾンを描いた。残り18小節。高音へと駆け上がるフレーズの途中で美森はトランペットの音を小さくしていき、吹くのをやめた。再びソロはクラリネットだけになった。運指の難しい複雑な8分音符を、アリスの指と息の確にとらえる。そして、最後の4小節、超高音のロングトーン。アリスは13年間の思いを込めてその音を吹き鳴らした。

アリスが両手を広げ、お辞儀をすると、子どもたちがワツと歓声を上げた。目の前で星のようにまたたく笑顔の数々。^④幼いアリス自身もその中で拍手していた。

(オザワ部長「空とラッパと小倉トースト」問題作成上ふりがなをつけた箇所がある)

(注) 座奏||椅子に座っての演奏 ソロ||単独の演奏者が演奏する独奏のこと

スタンドブレイ||曲中で目立つように立つて演奏すること

ばってん、なんていつも音が泣きよーっちゃろう||でも、なんていつも音が泣いているんだろう

スウィングジャズ||ふりこのように規則正しくゆれながら躍動するリズム感覚で演奏するジャズ

リフレイン||繰り返し

ユニゾン||いくつもの楽器が、同じ音符や同じ旋律、またはオクターブの音や旋律を奏でること

ロングトーン||一定の高さの音や声を長く伸ばすこと

(6) 美森は、アリスにとってどのような人物として設定されているか。最も適切なものを、次のア〜エから一つ選び、記号を書きなさい。

- ア アリスに立ち直るきっかけを与える存在。
- イ アリスの音楽に対する好奇心を増幅する存在。
- ウ アリスが、安心して演奏をやめられるようにする存在。
- エ アリスに友情の大切さを伝え、他の部員に演奏を促す存在。

(7) この文章を読んだ田中さんは、——線部④に着目し、このときのアリスの気持ちを考えるために、関係すると思われる部分から読み取ったことを付せん1、2に書いた。付せん1、2を踏まえて、——線部④に表れているアリスの気持ちを、五十字以上六十字以内で書きなさい。

付せん

1 ……線部 a から、名晋の音楽に対する憧れを再認識したアリスの様子がわかる。

2 ……線部 b から、課題から逃げようとするアリスの様子がわかる。

これより先に問題はありませぬ。
下書きなどが必要なきには、自由に使つてかまいません。

※下書き用の枠

【問二】(6)

(6)		
80	50	20
70	40	10
90	60	30

【問二】(3)

iii		
65	50	20
55	40	10
60	30	

【問五】(7)

(7)		
50	20	
40	10	
60	30	

